第四章　ローマ・ポンペイ・ブリンディジ

一　ローマ・テルミニ駅着と宿さがし

ベニスから列車でローマを目指した。ローマの鉄道の玄関口は、有名なテルミニ駅である。大きな駅で人の数もすごい。まずはこの地での宿泊場所を決めるのが最優先である。駅にはインフォメーションセンターが目立つ場所にあった。決まり文句は「安い宿を紹介ししてもらえますか?」である。比較的スムーズにローマでの宿泊場所を見つけることができた。駅から歩いて十分くらいのバルベニーニ広場の近くであった（一泊１４００円程度）。コロッセオなどの観光名所まで歩いて行ける立地である。とにかく大きくて重いリュックを背負っているので、宿泊先が見つかり荷物を下ろすまでが一苦労である。夕食は宿近くのビュッフェスタイルのレストランを見つけ、そこでお世話になることが多かった。

二　コロッセオ・トレビの泉・スペイン広場

次の日からローマの街、特に観光名所を巡った――コロッセオ、フォロ・ロマーノ、トレビの泉、スペイン広場、バチカン市国などなどである。宿泊先からこれらの場所までは歩いて行ける距離であったので、とにかく、歩いて、歩いて、歩き回った。

ローマの街は、私の世代であれば、映画『ローマの休日』を見ておられるので観光スポットは、お馴染みであろう。私もそのような場所をこの目で見たいと思った。『ローマの休日』は、学生時代、友人のＹＡ君に誘われて観た。もう一本のライザ・ミネリ主演の映画が良かったと友人と言い争ったが、もちろん、『ローマの休日』の方が後々まで好まれている。当

時の私は少し尖っていたと思う。

フォロ・ロマーノ、コロッセオを見学していた時、イタリアの中学生の修学旅行のグループと出会った。記念写真を撮った。この位の年齢は日本人に興味があるのか、あちこちで話しかけられた。バックパッカーや大人の旅行者よりもコミュニケーションを取る機会が多かったように思う。大人だと話すレベルが高くなるので私の英語力の貧弱さと知識レベルの低さが原因であろう。

トレビの泉はコイン投げで有名だが、私も後ろ向きにコインを投げた。再訪が可能となっているので行きたいが実現していない。それから同じく映画のシーンで有名なスペイン広場も訪れ、「真実の口」にも手を入れてみた。このようにミーハー的な観光を続けた。トレビの泉では、日本人の旅行者とわずかだが情報交換ができた。有名な美味しいパスタを食べてみたいと言ったら、ちゃんとしたレストランで食事をするとべらぼうに高くつくと言われ、もっぱら先に述べたセルフサービスの店に通った。この店でワインの四分の一ビンを時々飲んだ。それで酔っぱらって顔が熱くなっていた。

ローマの歴史をもっと勉強していれば――例えば塩野七生氏の『ローマ人の物語』でも読んでおればと思うが、刊行されたのが一九九二年ということなのでこの本は無理であったが――もっと興味深くローマ市内も回れたと思う。

ローマ

コロッセオ

ローマでの宿の窓から

トレビの泉

スペイン広場

三　バチカン市国

バチカン市国は、テルミニ駅の西方３～４kmにある。サン・ピエトロ広場そして大聖堂の壮大さ・見事さには感激した。さらに、バチカン美術館の美術品にも驚かされた。

サン・ピエトロ大聖堂の内部の写真は撮っていない。写真撮影が禁止されていたのか記憶が曖昧である。有名な『ピエタ像[1]（ミケランジェロ作）』は、聖堂の入り口を入って直ぐ右側にあるとのことだが、写真を撮っていないし、当時の感想も残していないのは大変残念である。

今、ネット上の写真を見る限り、彫刻の中でもう一度観てみたいというのであれば、フィレンツェにある『ダビデ像（ミケランジェロ作）』や『考える人（ロダン作）』よりも、このピエタ像が上げられる。この話を下の弟[2]にすると、彼がヨーロッパを旅行した時に撮った写真を提供してくれた。

サン・ピエトロ広場

サン・ピエトロ広場

ピエタ像（下の弟提供）

1　「ピエタ」は、Pietà、慈悲などの意とされる。この作品にまつわる様々な話は興味深い。マリアの左肩から右脇へ垂れた飾り帯の上にはミケランジェロの現存する唯一の署名があるとのことなど。『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』。最終更新　２０２３年６月12日（月）18：56　ＵＴＣ　URL: https://ja.wikipedia.org/wiki/ピエタ（ミケランジェロ）

2　下の弟は篠笛奏者で、そのサイトでは篠笛に関する情報の他に、自分の旅行の思い出を『旅日記』として発信している。https://fuenosuke.com/　２０２３年11月現在。

もう一つは、『システィーナ礼拝堂天井画』である。これもミケランジェロの作であるが、天井画は肉眼では細部は見られない。ここは、写真撮影が禁止されており、絵はがきを買った（資料集ご参照）。この他、バチカン美術館の収蔵品の見事さ・多さには感激した。この旅で多くの美術館などを見たが、フレンツェのウフィツ美術館、マドリッドのプラド美術館と並び感銘を受けた美術品の数々であった（もちろん、ルーブルなど他の美術館も素晴らしい。日程などでの心の余裕や予備知識の有無の影響での感想である）。

ローマの一番の思い出は、このバチカン市国の見学かも知れない。もう一度、訪れ、『ピエタ像』や『システィーナ礼拝堂天井画』を観たい。もちろん、パスタをちゃんとした店で食べてみたい。

四　ポンペイ・ナポリ

ポンペイは、ローマから南へ約２００㎞である。ローマから鉄道で往復できると考え、鉄道に乗った。ポンペイの駅に着くまでは良かったが、なんとストライキ中でポンペイの遺跡を見学することができなかった。急遽、予定を変更し、ナポリの街を見学することとした。

ナポリの中央駅から市街部を歩き、当時も有名だった「洗濯ものが干してある街路」を見ながら、海岸に沿い、卵城がある岬まで歩いた。海岸近くまで行けば、ベスビオ火山が見られるのではと思ったが、天気の影響かベスビオ火山はよく分からなかった。また、ピザを食べた記憶がない。食べていないはずだ。食べてみればよかった。街中がきれいでなかったとの感想がある。美術品の見過ぎかも知れない。

ナポリの通り

五　ブリンディジ〜アテネ

次の目的地はアテネである。アテネにはイタリアの長靴のかかと位置にある都市・ブリンディジまで行き、それから船とバスを乗り継いで入る。まずは、ローマから鉄道でブリンディジへ向かうが、列車内で駅弁を食べたことを覚えている。パスタなども入っており美味しかった。

もう一つの記憶が「この頃、どうしても誰かと話したい、それも日本語を使いたい」と強く思ったことである。ブリンディジの鉄道駅で食べ物を売っていたお店の人と注文時に話したか、旅行者の誰かと話をしたか、どうしたか、よくは覚えていないがなんとか解消できた。

アテネへのフェリーに乗るとバックパッカーの旅行者が多かった。話し掛けたか掛けられて、フェリーを降りるギリシャの港名（パトラと思われる）、アテネに行く方法（バスに乗ったはずだが記憶が曖昧）等々を教えてもらい、何とかアテネに着くことができた（五月三日の深夜）。

アテネへの船の船尾より